

實踐的避難訓練計畫例



緊急地震速報を活用した避難訓練計画例

1 目的

- (1) 地震発生時に、物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に素早く身を寄せて、安全を確保することができるようにする。
- (2) 教職員の指示を待たずに、自ら判断し行動できるようにする。

2 想定

休み時間に緊急地震速報発報。震度5弱の地震が発生、〇〇秒後に大きな揺れが到達する。

3 展開

【事前指導】

「地震から身を守る行動」について指導を行う。緊急地震速報の仕組みについて理解させる。児童生徒等の実態によっては混乱が想定されるため、事前に十分な対策をとっておく。

全体指揮者の動き	担任の動き	他の教職員の動き	児童生徒等の動き
緊急地震速報発報 震度5弱の地震想定 〇〇秒後に大きな揺れが到達			
<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集のもと第一次避難場所に避難を指示する。 ※情報収集の手段は、複数確保しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつけながら教室に向かい、避難体制をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつけながら避難経路及び避難場所の安全を確認する。 【安全点検班】 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を寄せて、姿勢を低くして頭を守る。避難行動の指示が出るまで、身の安全を確保する。

地震がおさまりましたが、余震の心配があります。落ち着いて〇〇〇へ避難してください。



※避難誘導は、停電等により放送設備が使用できないことを想定し、ハンドマイク等で行うこともよい。

<ul style="list-style-type: none"> ・全体の動きが掌握できる位置に立ち、避難の様子を掌握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員を確認し、避難場所に誘導する。 ・教室の近くにいる児童生徒等も併せて誘導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ等に取り残された児童生徒等がいないか確認をする。 ・児童生徒等の避難誘導を行う。【安否確認・避難誘導班】 ・救急用品を持ち、避難場所へ向かう。【救護班】 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室近くにいる児童生徒等は、教室にいる児童生徒等の避難に合流する。 ・学級以外の場所にいる児童生徒等は、近くの出口から避難場所へ向かう。
---	---	--	--



※負傷者が発生した場合や避難経路が倒壊により利用できない場合、行方不明者が発生した場合などの想定を変えて行うことでより実践的な避難訓練となる（避難訓練実施上の工夫参照）。

<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人数及び負傷等の有無を掌握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次避難場所で人員の確認を行い、全体指揮者等へ報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの有無を確認する。 ・避難してきた児童生徒等を落ち着かせるよう声かけを行う。 ・人員確認の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で避難してきた児童生徒等は、自分の学級に合流する。
--	---	--	--

【事後指導】

- ①防災主任の話聞く（自分で判断して行動することの大切さや安全な場所等について理解させる）。
- ②教室へ移動し、訓練の反省をする。

4 評価

- 【児童生徒等】〇物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に素早く身を寄せて頭を守る等、安全を確保することができたか。
- 〇自ら判断し安全な行動をとることができたか。

「地震から身を守る行動」

場 所		児 童 生 徒 等 の 行 動
校 内	教 室	近くの窓、壁と反対側に頭を向けて机の下にもぐり、机の足をしっかり持つ。 机のない場所では、椅子等の落下物を防げるものの下に隠れ、頭部を保護する。
	特別教室	初期行動は教室と同じ。 実験中であれば、危険物（実験器具棚、調理用棚、工具棚、実験器具、工具、アイロン等）から離れる。
	体育館	体育器具や窓ガラス等から離れ、中央部に集まる。頭部を保護し姿勢を低くする。（建物の構造などにより、柱や壁に寄り添う場合がよい場合もある）
	プール	プールのふちに移動し、プールのふちをつかむ。
	廊下階段	窓ガラス、蛍光灯の落下を避け、中央部で姿勢を低くする。 近くの教室の机の下にもぐる。
	トイレ	出口を確保し、頭部を保護する。
	運動場	校舎等からガラスの飛散や外壁の崩壊、フェンスや体育器具等の倒壊の危険性のあるものから離れる。
校外活動場所	室内での初期行動は、校内と同じ。 電車、バス等乗車中は、乗務員の指示に従う。	
通学路等	ブロック塀や瓦屋根、自動販売機などの危険物から離れ、頭部を保護し安全な場所に身を寄せる。	

避難訓練実施上の工夫

- 災害が休み時間に発生したという想定にし、あらかじめ行方不明となる児童生徒等を配置しておく、安全確認（点呼・人員確認）が正確にできるかを訓練する。
- 廊下等に落下物や転倒物に見立てた段ボール等を置き、危険を避けて避難経路を選択できるか訓練する。
- 防火扉が閉じている状況を想定して避難訓練を行う。
- 津波の被害が予想される学校は、地域住民や近隣の学校等と合同で高台等への避難訓練を行う。
- けがをした児童生徒等の搬送訓練（ロープを用いておんぶ、担架）を取り入れる。
- 訓練実施日は予告しておくが、想定災害の発生時刻は児童生徒等とはもとより、教職員にも伏せておく。その際、心のケアの観点から配慮が必要な児童生徒等に対しては事前に十分な対応を行っておく（◎訓練の目的を伝える：「命を守るために大切な訓練であること」、◎参加の有無：「無理をして参加する必要がないこと。◎避難経路の確認：この経路を通れば安全であること。等）
- 訓練の様子を動画で記録し、相互評価に活用する。
- 数名の教職員を避難経路に配置し、避難誘導がスムーズに行えるかを評価する。
- 障がいのある児童生徒等については、障がいの状況に応じて避難を支援する教職員をあらかじめ決め、対応の仕方を共通理解するとともに、以下のような配慮を行う。
 - ◆訓練前に安全行動、避難行動について練習を行う。
 - ◆安全行動、避難行動の手順を視覚的に示したカードなどをあらかじめ提示しておく。
 - ◆校内の安全な場所をセーフゾーンとして定め、テープ等で印をつけるなど、視覚的に示しておく。
 - ◆報知音に抵抗がある場合は、イヤーマフを着用させたり、地震発生を旗や鈴で知らせたりするなど音の刺激をコントロールする。
 - ◆支援が必要な児童生徒等の場合は、「避難を手伝ってください」「防災ずきんをとってください」など支援を求める練習も行う。

引き渡し訓練計画例

1 目的

大規模地震等発生時、児童生徒等の安全を確保し、速やかに児童生徒等を保護者等に引き渡すことができるようにする。

2 想定

震度5弱の地震が発生。学校防災マニュアルの引き渡し基準に基づき、引き渡しを決定した。

3 展開

【事前指導】

- 引き渡し訓練の目的や行動の仕方を確実に理解させる。
- 避難訓練と併せて実施することで、より実践的な訓練とする。

全体指揮者の動き	担任等の動き	他の教職員の動き	児童生徒等の動き
大規模地震等発生を想定した避難訓練の実施 避難場所へ到着 全員の避難確認			
<ul style="list-style-type: none"> ・校内の引き渡し基準に基づき、引き渡しを決定し、教職員に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ提出された引き渡しカードの準備を行う。 ・引き渡しまで、静かに待つように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉メール（第一報）で児童生徒等の安全が確保されていることを連絡する。 ・一斉メール（第二報）引き渡しを決定したことを保護者等に連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き取りがあるまで、担任等の指示を聞き、静かに待つ。
保護者等への引き渡し開始			
<ul style="list-style-type: none"> ・全体が把握できる位置に立ち、引き渡しの様子を掌握する。 ・引き渡し状況の報告を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き渡しカードをもとに、引き取り者を確認し、一人ずつ確実に引き渡す。 ・引き渡しカードに引き渡した時刻を記録する。 ・引き渡しが終了した担任は、本部に終了時間を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校門等に立つ教職員は引き取り者の確認を行い、不審者が紛れ込まないようにする。 ・引き取り者の動線が交わらないように誘導する。 ・引き渡しの支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれたら引き取り者の所へ移動し、担任と一緒に引き取り者の確認をする。 ・引き渡し後は、引き取り者と通学路の危険箇所等を確認しながら下校する。
<h3>【事後指導】</h3> <ul style="list-style-type: none"> ○引き渡し後は、引き取り者と一緒に通学路の危険箇所を確認しながら下校する。 ○把握した危険箇所については、学校にも報告する。 			

4 評価

【児童生徒等】 引き渡し訓練の意義を理解し、指示を守って行動することができたか。

【教職員】 教職員が連携行動し、スムーズかつ安全に引き渡しを行うことができたか。

登下校時の避難訓練計画例

1 目的

登下校中の災害を想定した訓練を実施することで、児童生徒の「自助」の意識を高めるとともに保護者・地域・学校が連携して、登下校中の児童生徒の安全を確保する体制を構築する。

2 想定

児童生徒の下校中に震度5弱の地震が発生し、校舎・地域家屋の倒壊の恐れもある。全ての児童生徒の安全を確認できていない。

3 展開

【事前指導】

- ①通学路上の安全な場所や危険な場所について理解させる。
- ②二次避難で向かう場所や安全な場所について保護者等と事前に話し合い、予め決めておく。

学校・教職員の動き	児童生徒の動き	保護者・地域住民の動き
○時○分 震度5弱の地震が発生		
【安全行動】 <ul style="list-style-type: none"> ・通学路上の各ポイントに立ち、ホイッスルや大声で地震発生を知らせる。(防災無線等も活用) ・保護者や地域住民に児童生徒の安全確保をメールや放送で依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生を知り、1次避難行動をとる(落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に身を隠す、頭部の保護等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で、近くの児童生徒に地震発生を知らせる。 ・安全行動がとれていない児童生徒に声をかけ、できる範囲で一緒に行動する。
【放送・メール】訓練。地震が発生しました。下校中の児童生徒の安全確保をお願いします。		
【避難行動】 <ul style="list-style-type: none"> ・下校中の児童生徒について、保護者や地域住民に避難誘導を依頼する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・メール及び放送を確認し、児童生徒の安全確保を行う。
【放送・メール】訓練。地震がおさまりました。下校中並びに自宅に戻ってきた児童生徒の安全確保をお願いします。		
【災害対策本部の設置】 <u>避難誘導班</u> : 学校にいる児童生徒数の確認をする。 <u>安全点検班</u> : 校内の被災状況を確認する。 <u>安否確認班</u> : 保護者に安否確認のメールを発信し、返信を依頼する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等との取り決めのとおり、安全な場所に向かう。その際、できるだけ集団で移動する。 ※安全な場所に向かう経路に危険な場所はないか確認する。 ・保護者等と取り決めた安全な場所で待機しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で外に出て、自分の子どもや近隣の児童生徒の安全確認・誘導をする。 【地域住民等】 ・保護者等と取り決めた場所で、児童生徒の安全を確認する。 【保護者等】
【メール】訓練。児童生徒の安否確認を行います。以下の3つのいずれかを選び、速やかに返信してください。1「安全な場所」・・・予め決めておいた場所におり、安全である。2「保護者と一緒」・・・現在、保護者と一緒で安全である。3「不明」・・・現在、子どもがどこにいるのかわからない。		

<p>安否確認班: 児童生徒名簿にチェックして、災害対策本部に連絡する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学区を巡回し、迷っている児童生徒がいたら、安全な場所に誘導する。
<p>災害対策本部: 不明児童生徒の確認を行い、捜索開始を指示する。</p>		<p>【地域住民等】</p>
<p>学校: (安否不明児童生徒がいたら) 通学路や保護者等と取り決めておいた場所を捜索する。 安否確認が取れたら学校に連絡する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学校から児童生徒の不明連絡がきたら、心当たりを捜索する。 ・安否確認ができたら学校に連絡する。 【保護者等】
<p>学校: 全員の安否確認が完了したら保護者・地域住民に全員の安否確認完了と訓練終了を連絡する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者等と一緒に帰宅する。 	
<p>【放送・メール】訓練。全員の安否が確認されました。訓練終了とさせていただきます。本日は、御協力ありがとうございました。</p>		
<p>【事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○後日、参加した地域住民や保護者等、通学路のポイントに立った教職員の反省をもとに、安全行動、避難行動について指導を行う。 ○備えとして、「マスク、軍手、連絡先を書いた紙や防犯笛」などを携行しておくことの重要性について理解させる。 		

4 評価

<p>【児童生徒】</p>	<p>通学路の状況に応じた適切な避難行動をとることができたか。 保護者等と取り決めた安全な場所に行くまでに、危険な場所はなかったか。</p>
<p>【教職員】</p>	<p>児童生徒の安全確保、安否確認のための情報収集・情報提供をスムーズに行うことができたか。</p>
<p>【保護者・地域住民】</p>	<p>学校と連携を図り、児童生徒の安全確保、安否確認のための情報提供をスムーズに行うことができたか。</p>

地域と連携した避難訓練計画例

1 目的

地域と連携した避難訓練を行うことで、災害発生時における「自助」「共助」のための連携・協働体制の構築を図る。

2 事前の準備

(1) 協議会の設定・参加者

学校関係者、関係機関（教育委員会、市町村防災部局、消防署、警察署等）、自治会、自主防災組織、保護者代表者等との協議の場を設定する。

(2) 協議内容

- ・ 日程：保護者や地域住民の参加を促すためには、既存の学校行事や地域行事に併せて実施するなどの工夫が考えられる。
- ・ 想定：市町村防災部局と協議し、地域で想定される災害を想定して実施する。
- ・ 内容：児童生徒、教職員、保護者、地域住民と一緒に参加できるように工夫する。
（学校避難後に、避難所開設訓練、心肺蘇生法実技講習会、炊き出し訓練、防災講演会等を実施する。）
訓練開始の周知方法や避難経路の設定、避難中の安全確保について協議をする。
- ・ 準備：保護者等の参加呼びかけや訓練に使用する消火器等の機材等の準備は、学校が行い、地域住民への参加の働きかけや、学校で準備が困難な資機材の準備は自治会に依頼する等、協力して行う。
配慮を要する児童生徒等のため、訓練で使用する教材等を準備する。

(3) 地域住民等への協力依頼を行う。

3 展開

【事前指導】			
熊本地震を例に、大規模災害発生時は、地域住民と協力し合い、助け合うことの重要性を理解させる。			
全体指揮者の動き	教職員の動き	児童生徒の動き	地域住民等の動き
緊急地震速報を活用した避難訓練を実施			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の動きが把握できる位置に立ち、避難の様子を掌握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所での児童生徒等の指導を行う。 【安否確認・避難誘導班】 ・ 校舎等の安全点検を行う。 【安全点検班】 ・ 学校に避難してきた地域住民の誘導を行う。【避難誘導班】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の指示を守り、静かに避難場所で待機をする。 ・ 必要に応じて、学校に避難してくる地域住民の支援を行うことも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災無線等の合図を聞き、学校等に避難を開始する。
【学校避難後に行う地域と連携した訓練内容等の例】			
<ul style="list-style-type: none"> ◆避難所開設訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難者受付及び名簿の作成 ・ 開放区域及び開放優先順位の説明 ・ 避難所生活のルール説明 	<ul style="list-style-type: none"> ◆心肺蘇生法実技講習会 ◆炊き出し訓練 ◆災害図上訓練（DIG） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆消火訓練 ◆引き渡し訓練 ◆防災講話 	
【事後指導】			
地域住民と協力して、自分たちができることに主体的に取り組むことや、日頃から地域住民との交流を積極的に行っておくことの重要性について確認する。			

4 評価

○参加者からの反省を集め、次年度の計画に反映させる。